

靖国神社宮司に元海将 自衛官出身は2人目

2024年3月15日 10時15分



大塚海夫氏（2021年。アメリカ国防総省画像配信サービスより）

新しい靖国神社宮司に元海上自衛官の大塚海夫氏（63）が4月1日付で就任することが15日までに複数の関係者への取材で分かった。自衛官出身の宮司は松平永芳氏以来、2人目。山口建史宮司（75）は昨年6月に定年を迎えていたが、交代時期の調整のために任期を延長していた。

大塚氏は1960年生まれ。防衛大学校卒。元海将。前在ジブチ大使。社報2月号の寄稿で米国派遣時に何度も戦死者の慰霊祭を目の当たりにして、「（今の日本は）英霊の尊い献身無くしてはあり得ないとの確信が、英霊に対する感謝の念を深めた」と述べていた。（詳細は2024年3月20日号をご覧ください。 [中外日報購読申し込み](#)）

過去の「ニュース」

国内

靖国神社、新宮司に元自衛官 前ジブチ大使の大塚氏

豊田祐基子

2024年3月15日 午後 3:23 GMT+9 - 16分前更新



[1/2] 靖国神社（東京都千代田区）は15日、新たな宮司に元海将の大塚海夫前ジブチ大使が4月1日付で就任すると正式発表し、写真は海将補時代の
大塚氏（左）。2010年12月、米空母ジョージ・ワシントン艦内で撮影（2024年 時事通信）



【東京 15日 ロイター】 -靖国神社（東京都千代田区）は15日、新たな宮司に元海将の大塚海夫前ジブチ大使が4月1日付で就任すると正式発表した。山口建史現宮司の退任に伴う人事で、自衛官出身者が同神社宮司に就任するのは、1978年に第2次世界大戦のA級戦犯を合祀（ごうし）した松平永芳氏以来。3月14日の総代会で了承された。

靖国神社を巡っては、極東国際軍事裁判で裁かれたA級戦犯を合祀していることから政治家らによる参拝が政治問題化することが多く、歴代首相の参拝には中国や韓国が反発してきた。2013年12月に当時の安倍晋三首相が参拝した際は、米オバマ政権も「失望」を表明した。

宮司に就任することが決まった大塚氏はロイターに対し、「43年にわたり防衛と外交の世界で平和を追求してきたが、次の人生で、国のために尊い命を捧げた人々の霊が祭られるこの『平和の神社』に奉仕できることを誇りに思う」と述べた。

大塚氏は防衛大卒。1983年に海上自衛隊に入隊後、自衛隊司令部幕僚長や防衛省の情報本部長を歴任した。2020年に自衛官出身者として初めて大使に任命され、アフリカ東部ジブチの特命全権大使に就任した。

広告 - スクロール後に記事が続きます